

イー・アクセス株式会社 【9427】

2005年3月期 第1四半期決算説明資料
(2004年4月 ~ 2004年6月)



2004年8月11日

I. 2005年3月期第1四半期決算総括 3ページ

II. 2005年3月期第1四半期決算の詳細について 7ページ

III. 総括 14ページ

I. 2005年3月期第1四半期決算総括

3ページ

II. 2005年3月期第1四半期決算の詳細について

7ページ

III. 総括

14ページ

高い成長性

- 2004年6月末時点の累計加入者数は、前年同期比53%増の166.5万加入に到達。
- 提携ISPのナローバンドユーザーからブロードバンドへの移行が進み、第1四半期の純増数は16.9万回線。DSL市場全体の伸びを上回る。

収益基盤の確立

- 第1四半期の売上高は121億円となり、前年同期比47%増加。
- 事業規模の拡大により加入者あたりのコストが大幅に削減。経常利益及び当期純利益は前年同期の約10倍。EBITDAは前年同期比62%増加。

AOL営業譲受けと業績予想上方修正

- AOLジャパンのISP事業の営業譲受けが7月1日に完了し、業績予想を上方修正。
- 2005年3月期の売上高570億円（前年同期比49%増）、当期純利益を55億円（前年同期比133%増）を見込む。

転換社債発行と財務体質強化

- 6月28日に新株予約権付転換社債発行により230億円の資金調達を実施。
- 有利子負債を削減し、金融収支の改善に取り組むと共に、将来的な企業の成長や事業領域の拡大に備える。
- 株式売出しにより主要なプライベートエクイティグループの保有する普通株式は全て売却され、投資家層の分散を図る。

モバイルブロードバンド実証実験

- 次世代モバイルブロードバンド事業TD-SCDMA(MC)の実験本免許を5月28日に取得し、実証実験を開始。
- ADSL事業との相乗効果が見込める新規事業への取り組みを強化。

株式分割の実施

- 6月29日に株式分割を発表。7月31日の株主に対し1：5の株式分割を発表。

2005年3月期第1四半期 実績

	2004年3月期	2005年3月期	前年同期比 (%)		
	第1四半期 (2003/4 - 6)	第1四半期 (2004/4 - 6)			
売上高	82.5億円	121.1億円	+38.6億円	+47%	●売上高は、前年同期比47%増加し第一四半期で121億円。
営業費用	77.9億円	103.2億円	+25.3億円	+32%	●営業費用は、売上高の前年同期比47%増加に対し32%の増加にとどまる。加入者当たりの通信設備使用料（バックボーン費用、コロケーション費用等）の削減効果が奏功。
営業利益	4.6億円	17.9億円	+13.3億円	+291%	●経常利益及び当期純利益は、前年同期の1.4億円から10倍強となり15.0億円を計上。
経常利益	1.4億円	15.0億円	+13.6億円	+949%	
当期純利益	1.4億円	15.0億円	+13.6億円	+963%	

●AOL日本のISP事業営業譲渡は7月1日に完了した為、第1四半期の数字には含まれておりません。

2005年3月期 通期業績予想の上方修正

7月1日にAOL日本のISP事業営業譲受けが完了し、業績予想を上方修正。

	2004年3月期 実績	2005年3月期 前回発表予想 (5/17発表)	2005年3月期 上方修正予想 (8/10発表)	予想修正率 (%)	前年同期比 (%)
売上高	381.4億円	510.0億円	570.0億円	+12%	+49.4%
経常利益	27.2億円	50.0億円	55.0億円	+10%	+102.2%
当期純利益	23.6億円	50.0億円	55.0億円	+10%	+133.1%

●AOL事業本部の業績反映は、2004年7月～2005年3月までの9ヶ月間分。

I. 2005年3月期第1四半期決算総括

3ページ

II. 2005年3月期第1四半期決算の詳細について

7ページ

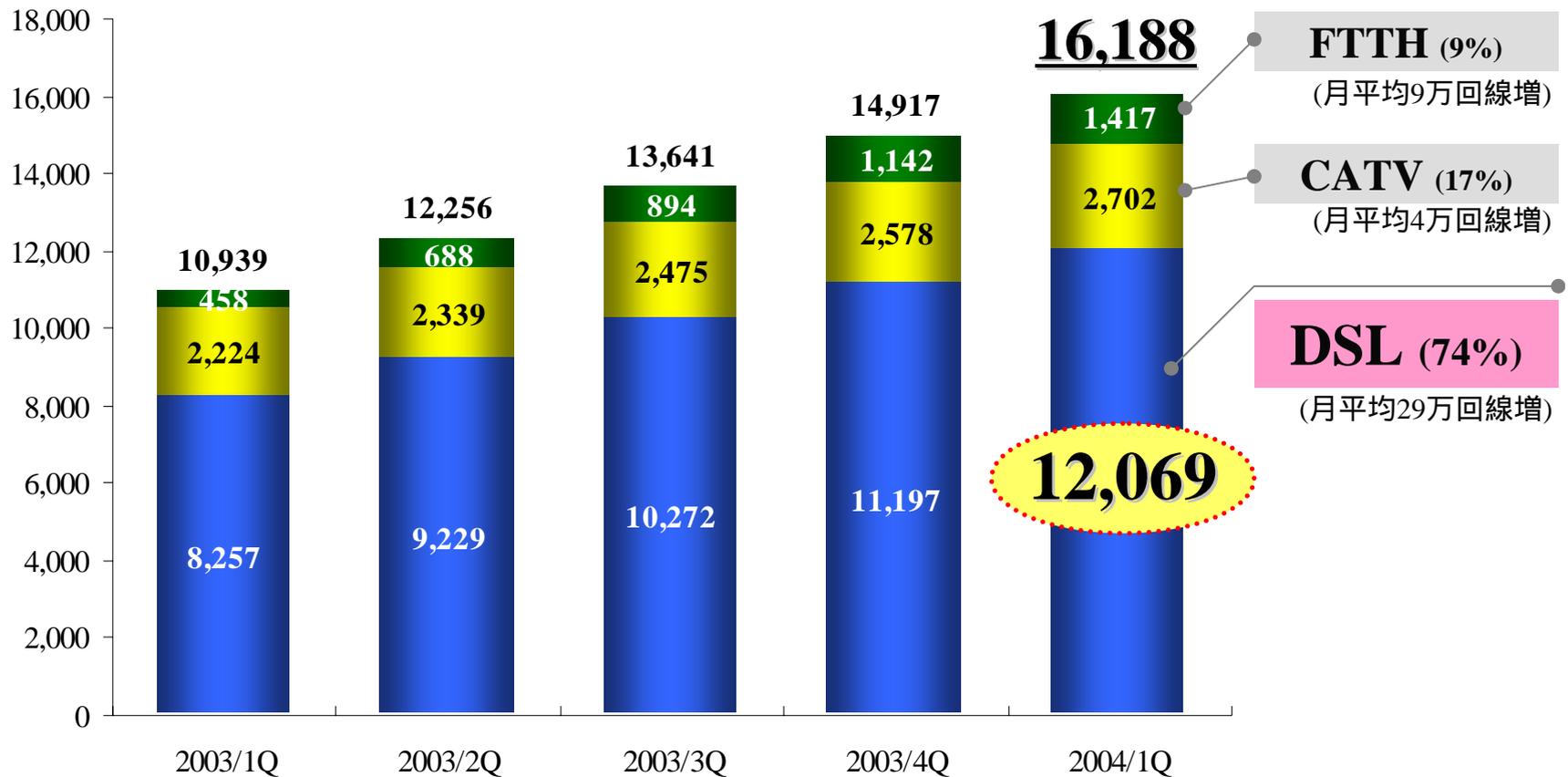
III. 総括

14ページ

日本のブロードバンド市場の伸び

日本のブロードバンド回線は月間40万回線を超える勢いで増加。
引き続きDSLがブロードバンドを牽引する状況が続く。

(千加入)



出所：総務省

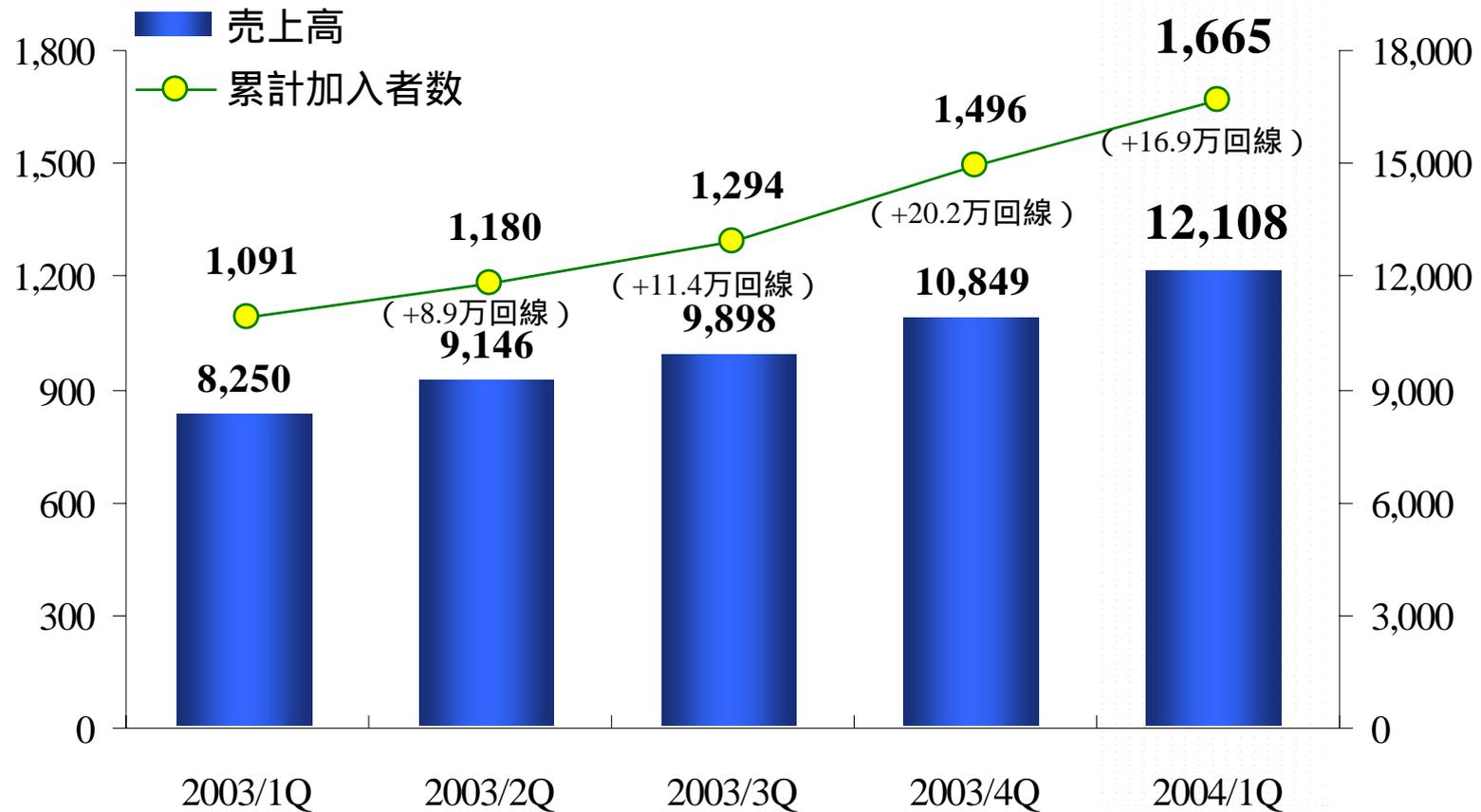
売上高と累計加入者数の推移

累計加入者数は前年同期比53%増。2004年1～6月に掛けての伸びが好調。

(累計加入者数：千回線)

【前年同期比53%増加】

(売上高：百万円)

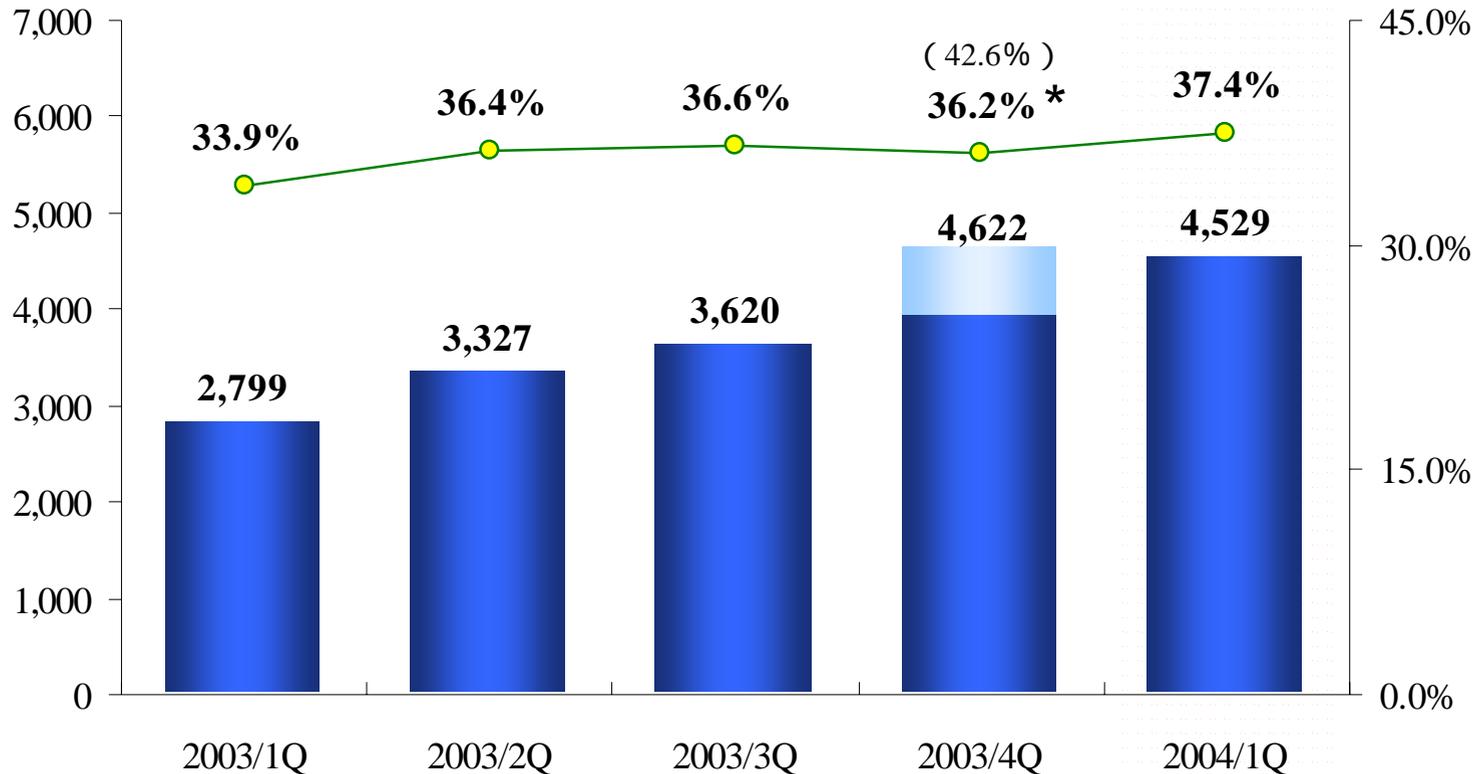


EBITDAとEBITDA利益率の推移

第1四半期のEBITDAは、前年同期比62%増加。

(EBITDA：百万円)

(EBITDA利益率：%)



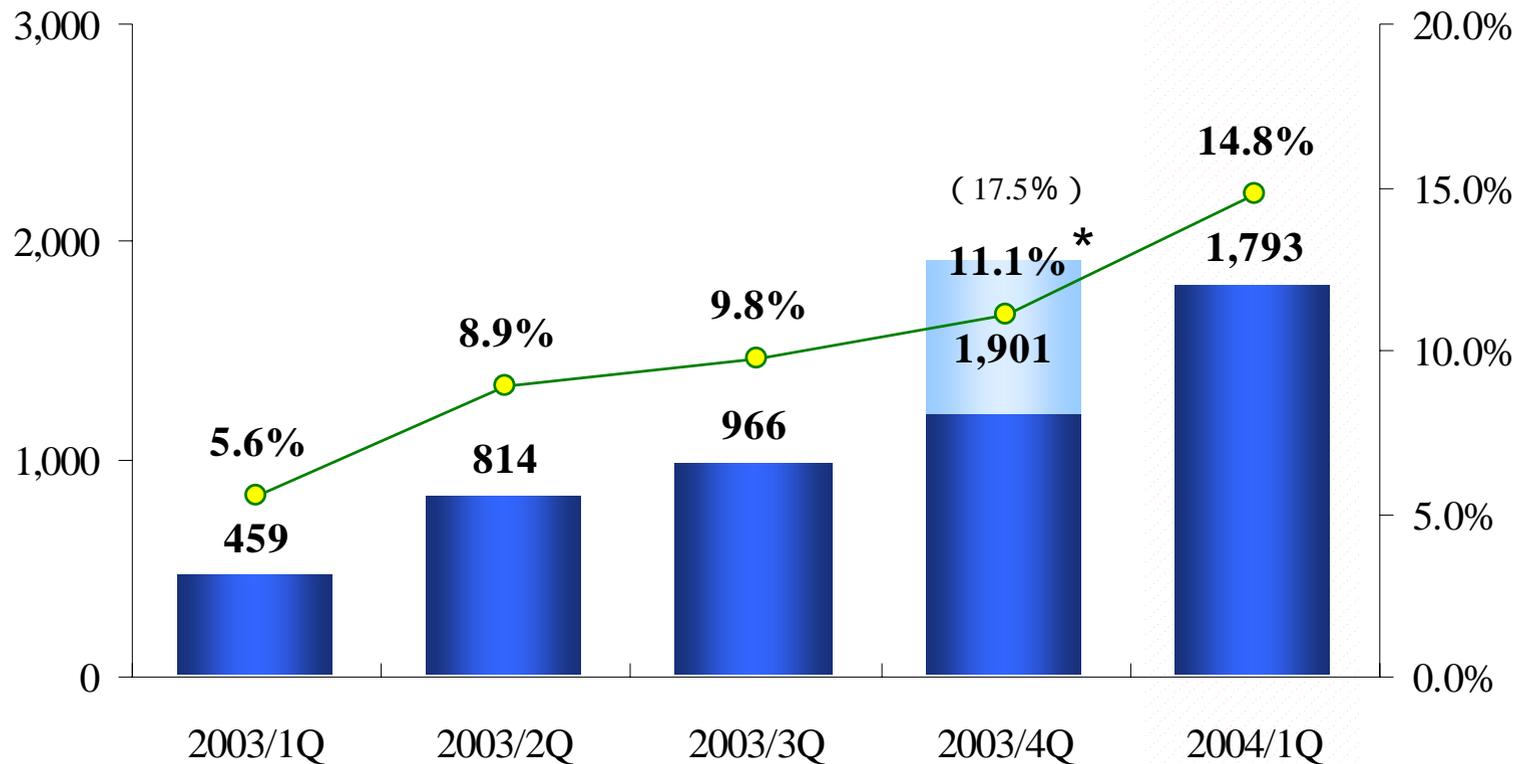
* 第4四半期のNTT関連費用、接続料金の見直しによる遡及精算（一時的な利益計上）の影響を控除したEBITDA利益率は36%。控除しない場合のEBITDA利益率は42.6%。

営業利益と営業利益率の推移

第1四半期の営業利益は前年同期から約4倍増加

(営業利益：百万円)

(営業利益率：%)



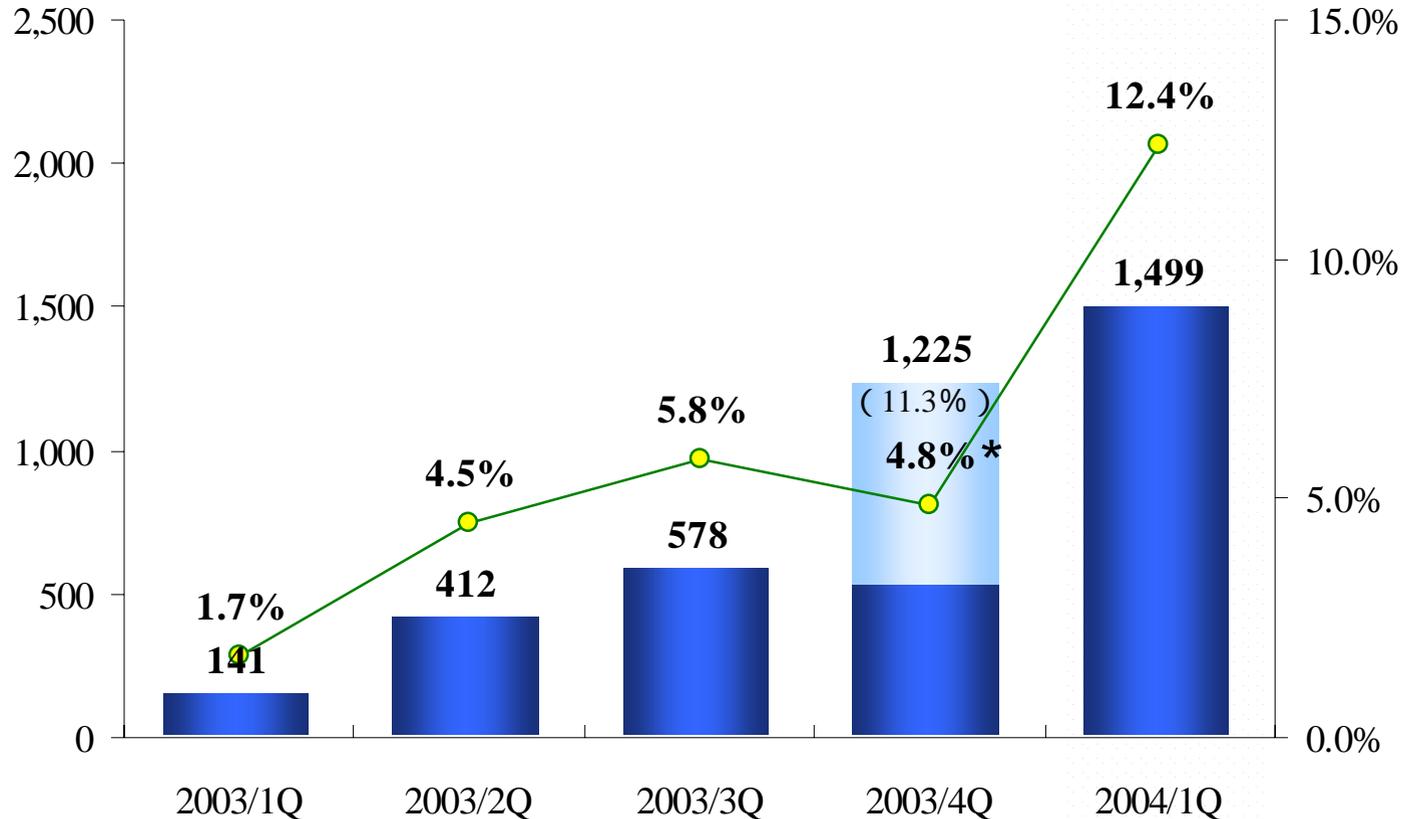
* 第4四半期のNTT関連費用、接続料金の見直しによる遡及精算（一時的な利益計上）の影響を控除した営業利益率は11%。
控除しない場合の営業利益率は17.5%。

当期純利益と当期純利益率の推移

第1四半期の当期純利益は、前年同期の約10倍と大幅に拡大。

(当期純利益：百万円)

(当期純利益率：%)



* 第4四半期のNTT関連費用、接続料金の見直しによる遡及精算（一時的な利益計上）の影響を控除した当期純利益率は約5%。
控除しない場合の当期利益率は11.3%。

バランスシートの状況

	2004年3月期第1四半期 (2003年6月末)		2005年3月期第1四半期 (2004年6月末)		増減額
	期末残高	総資産に 対する比率	期末残高	総資産に 対する比率	
現預金残高	105.6億円	24.8%	414.2億円	57.4%	+308.6億円
有利子負債	299.0億円	70.2%	473.2億円	65.6%	+174.2億円
純有利子負債	193.4億円	--	59.0億円	--	-134.4億円
資本合計	56.3億円	13.2%	175.4億円	24.3%	+119.0億円
•資本金	105.3億円		137.1億円		+31.8億円
•資本剰余金	92.5億円		23.3億円		-69.2億円
•利益剰余金	141.5億円		15.0億円		+156.5億円
総資産	425.9億円	100.0%	721.6億円	100.0%	+295.7億円
純有利子負債/資本比率	343.7%	--	33.6%	--	--

- 現預金残高は、株式上場による資金調達（77億円）と転換社債発行による調達（230億円）により増加。
- 有利子負債残高は、転換社債発行により増加しているものの、銀行借入・リース債務残高は減少。
- 資本に対する純有利子負債の比率は、343.7%から33.6%へと大幅に改善。
- 資本準備金の取り崩しにより、利益剰余金のマイナス（累損）を解消。

I. 2005年3月期第1四半期決算総括

3ページ

II. 2005年3月期第1四半期決算の詳細について

7ページ

III. 総括

14ページ

- 2004年6月末の累計加入者数は166.5万回線になり引き続き高い成長性を実現。
- 2005年3月期第1四半期も引き続き増収増益を達成。
- AOLジャパンのISP事業の営業譲受けが完了し、業績予想を上方修正。
- 転換社債の発行により財務体質を更に強化。
- モバイルブロードバンドはエリアを拡大し、実証実験に取り組む。
- 1：5の株式分割を発表し、株式の流動性を高める。

本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性に関する責任を負いません。ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いします。ここに示した意見は、本資料作成日現在の当社の意見を示すのみです。当社は、本資料中の情報を合理的な範囲で更新するようにしていますが、法令上の理由などにより、これをできない場合があります。
